

草加市の現状と課題

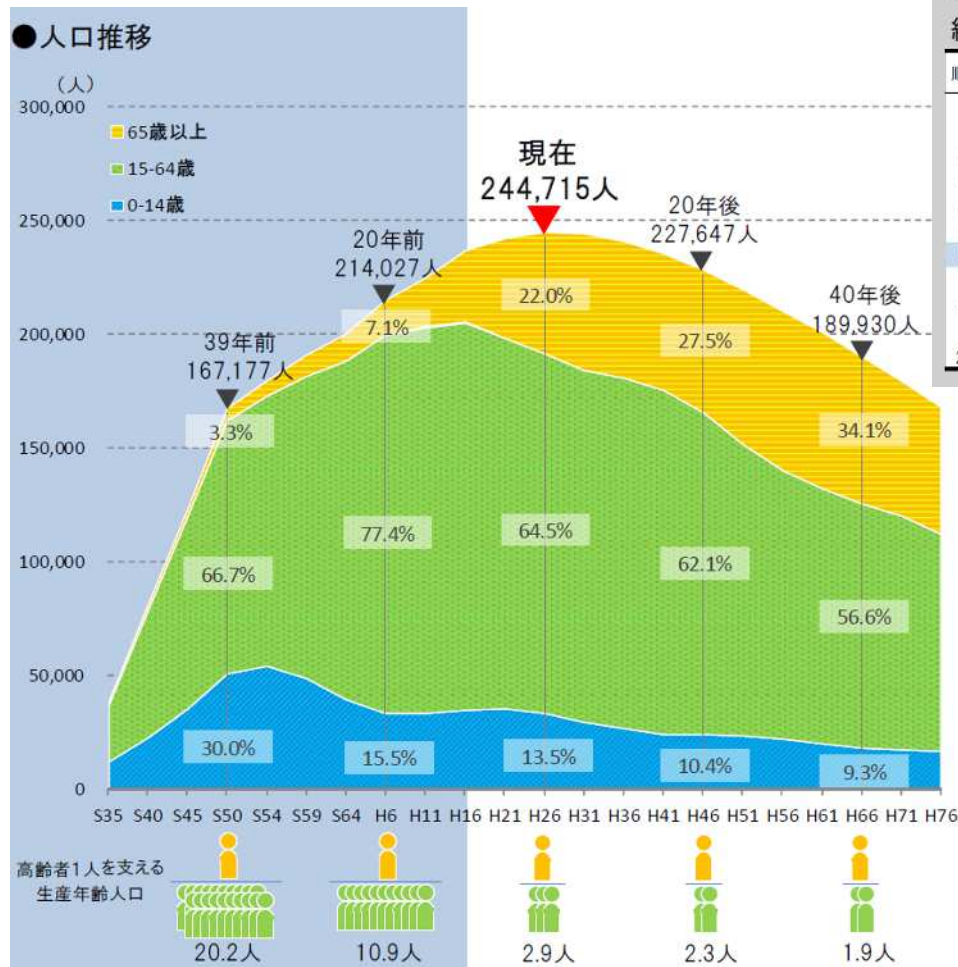
自治文化部産業振興課

1 . 草加市の人口

人口推移

これまで草加市の総人口は増加を続け、平成26年4月1日現在で約244,715人に達しています。

一方今後、総人口は減少に転じ、老年人口の増加と年少人口及び生産年齢人口の減少が予想されています。



埼玉縣市町村ランキング - 人口編 -

総人口

順位	市町村	総人口(人)
	全 県	7,221,806
1	さいたま市	1,243,436
2	川 口 市	566,006
3	川 越 市	348,796
4	所 沢 市	342,513
5	越 谷 市	330,552
6	草 加 市	245,021
7	春日部市	235,538
8	上 尾 市	224,968
...		
24	八 潮 市	85,054

人口密度

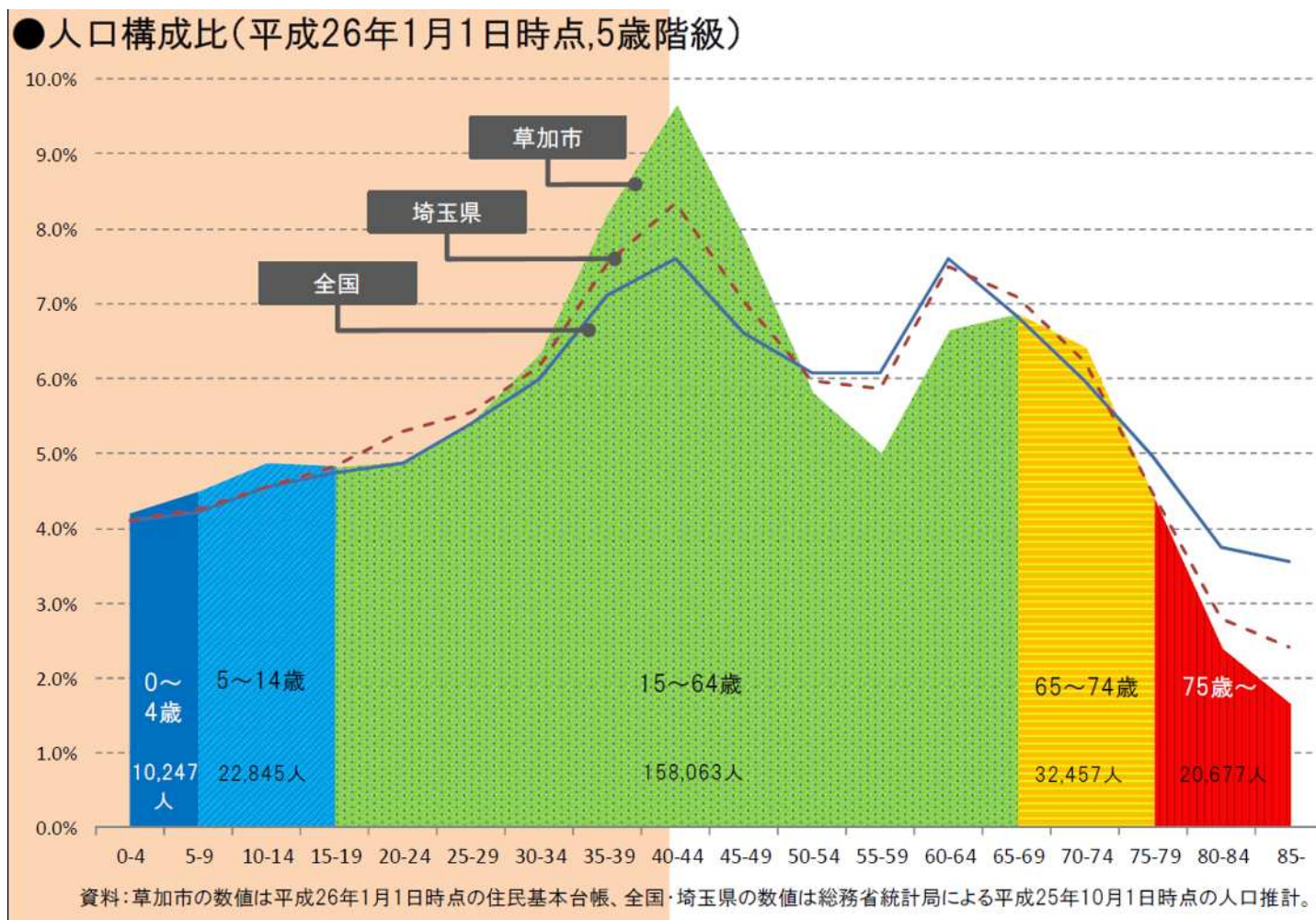
順位	市町村	人口密度 (人/ha)
	全 県	1,901.4
1	蕨 市	13,988.6
2	川 口 市	9,133.5
3	草 加 市	8,935.8
4	志 木 市	7,864.9
5	和 光 市	7,413.1
...		
11	越 谷 市	5,480.9
...		
13	上 尾 市	4,938.9
14	所 沢 市	4,757.8
15	八 潮 市	4,717.4
...		
18	春日部市	3,569.8
...		
21	川 越 市	3,195.3

平均年齢

順位	市町村	平均年齢 (歳)
	全 県	44.1
1	戸 田 市	39.6
2	和 光 市	40.3
3	伊 奈 町	41.1
4	朝 霞 市	41.4
5	吉 川 市	41.9
...		
7	八 潮 市	42.7
...		
9	川 口 市	43.1
10	草 加 市	43.3
...		
12	越 谷 市	43.5
...		
19	上 尾 市	44.2
...		
21	川 越 市	44.2
22	所 沢 市	44.3
...		
29	春日部市	45.4

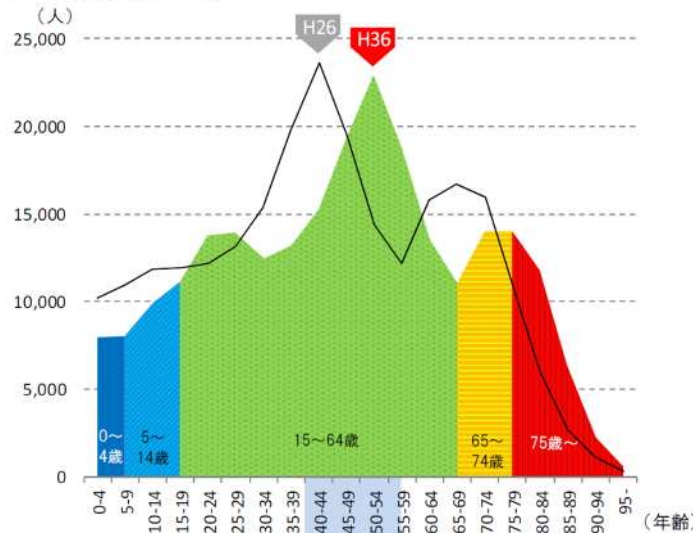
人口構成 - 全国・県との比較 -

草加市の人口構成は、全国・埼玉県と比較すると、35～44歳の比率が高く、50～64歳及び75歳以上の比率は低くなっています。

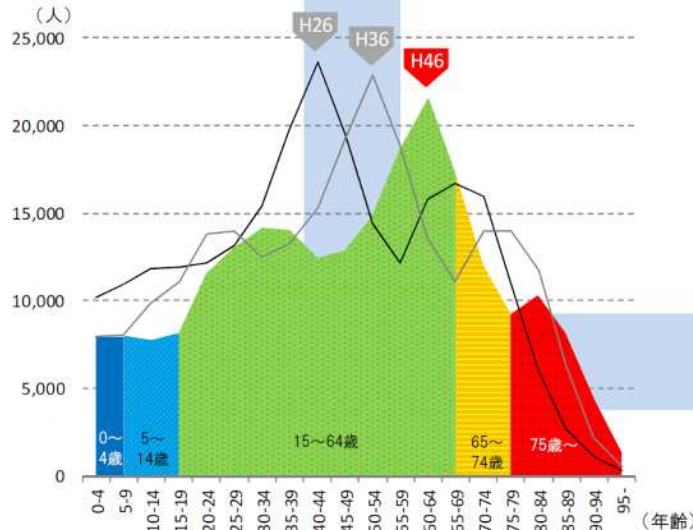


将来の人口構成 - 5歳階級ごとの推移 -

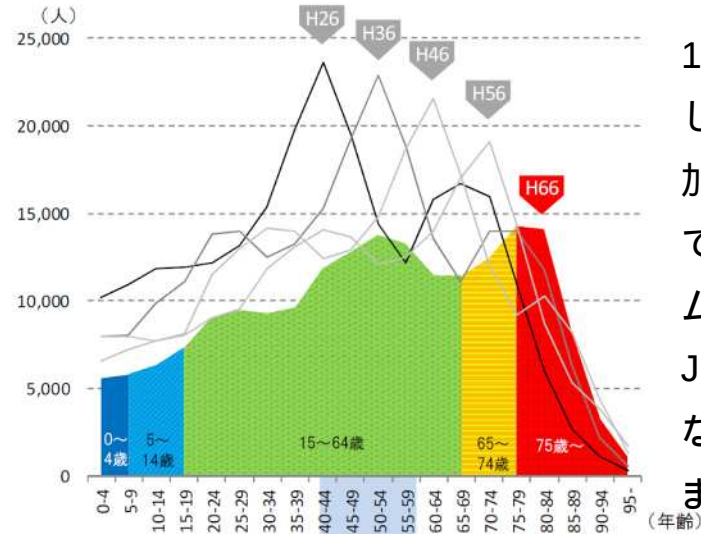
●10年後(平成36年)



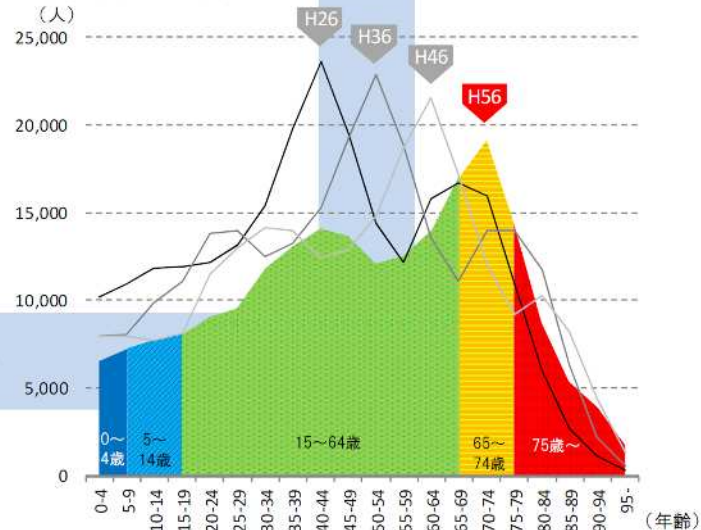
●20年後(平成46年)



●40年後(平成66年)



●30年後(平成56年)

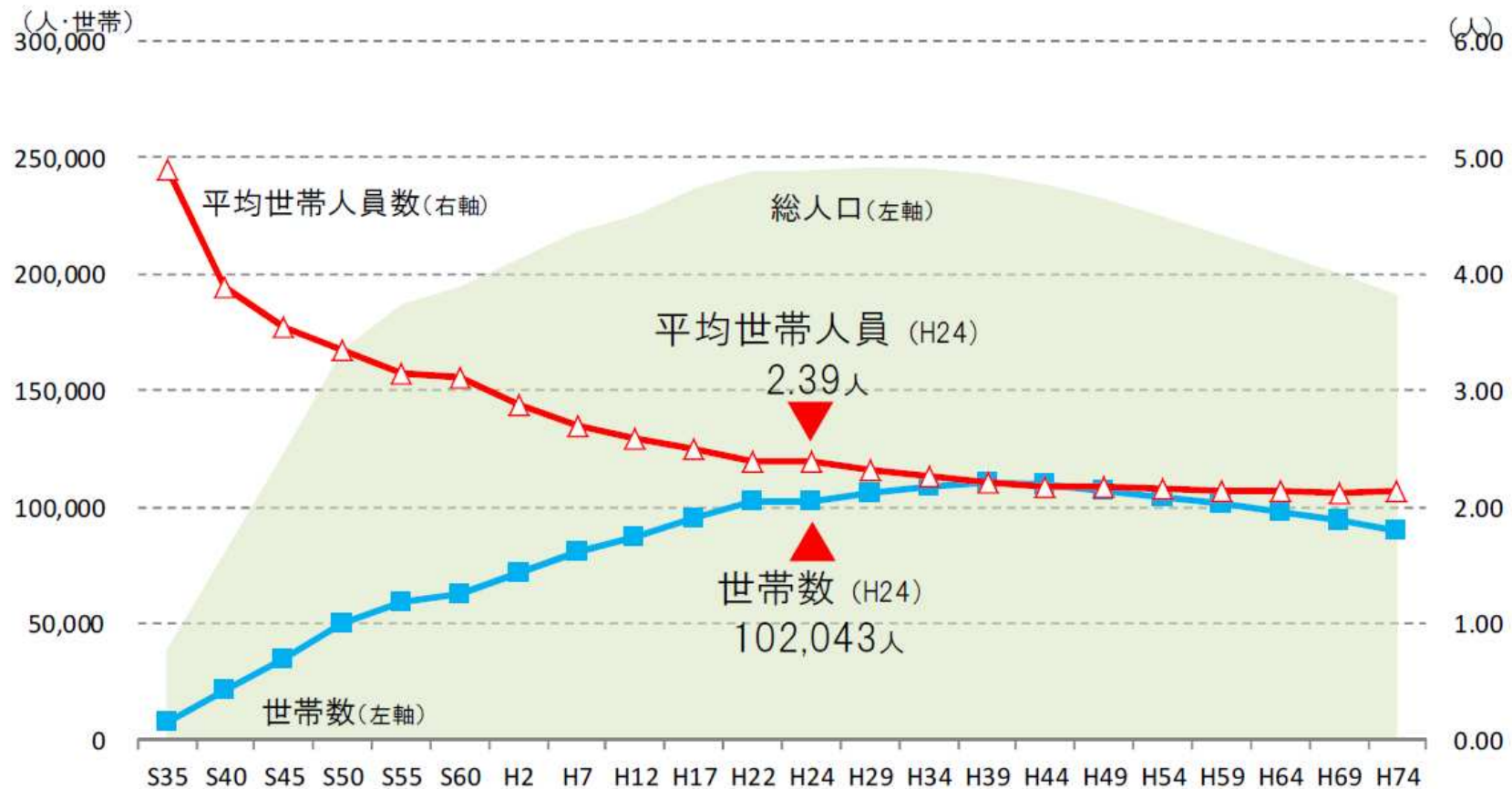


10～20年後では、14歳以下人口化減少し、75歳以上人口が増加します。30～40年後では、人口のボリュームゾーンである「団塊Jr.世代」が65歳以上となり、高齢化が加速します。

世帯数

これまでの推移では、世帯数が増加した一方、平均世帯人員は減少しています。

●世帯数・平均世帯人員の推移 -過去～現在～未来-



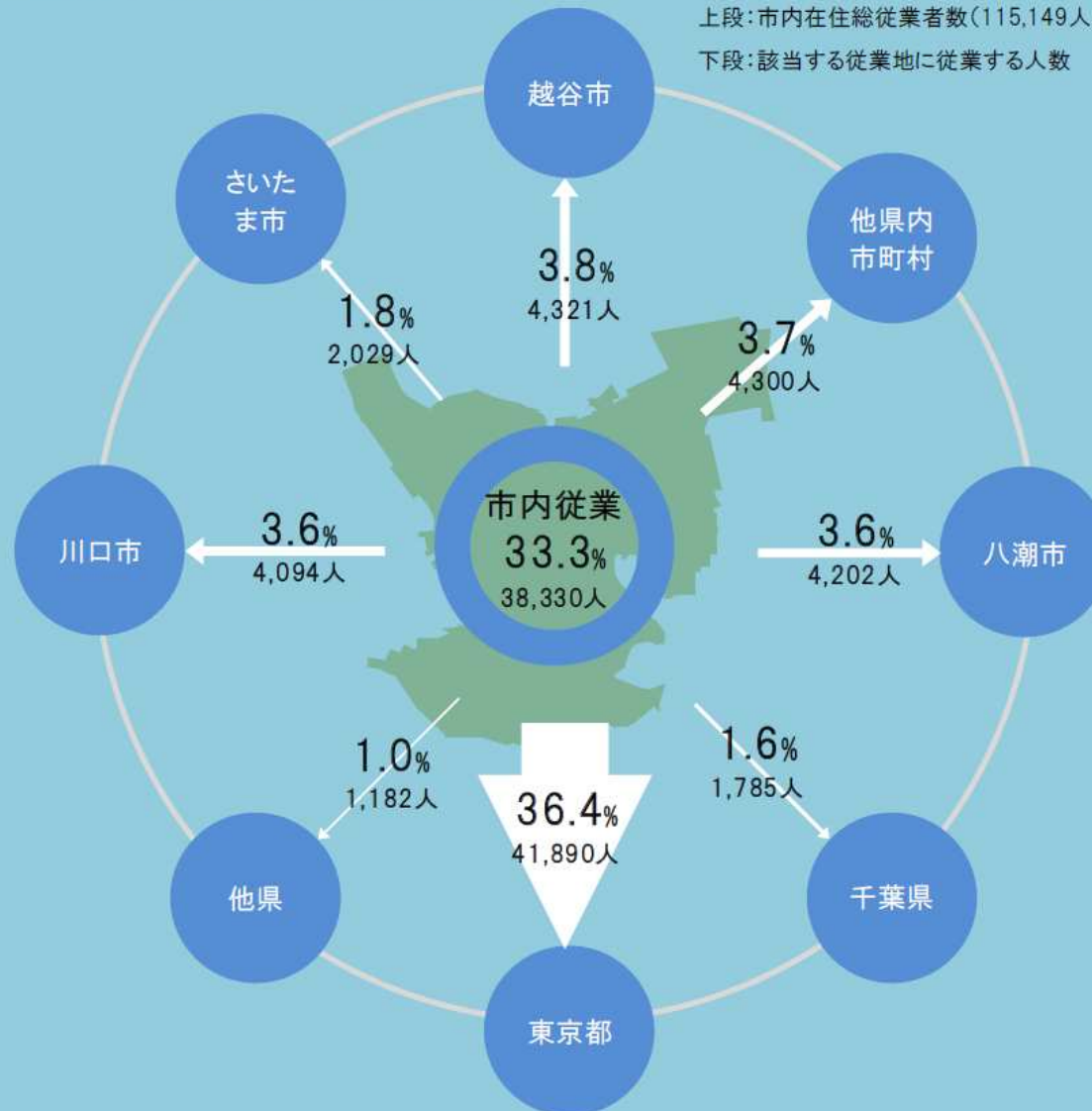
通勤流動

●市内在住従業者の従業地(H22年)

数値

上段：市内在住総従業者数(115,149人)に占める割合

下段：該当する従業地に従業する人数

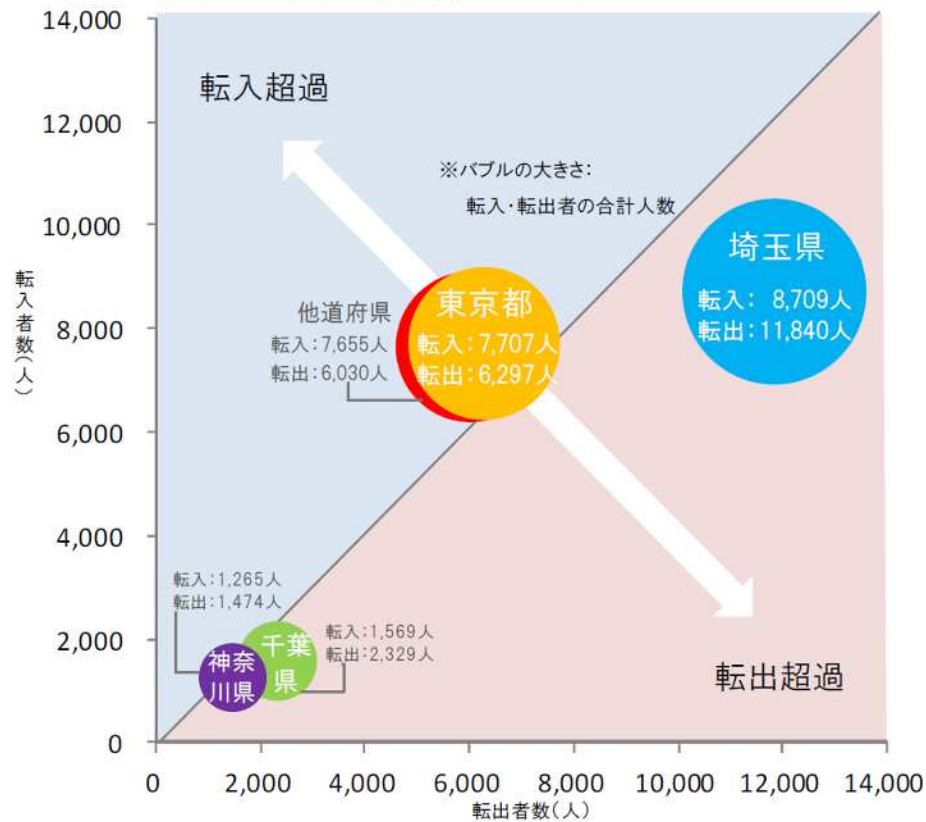


市内在住従業者の通勤先では、東京都が36.4%と最も多く、「市内で従業(33.3%)」より多くなっています。

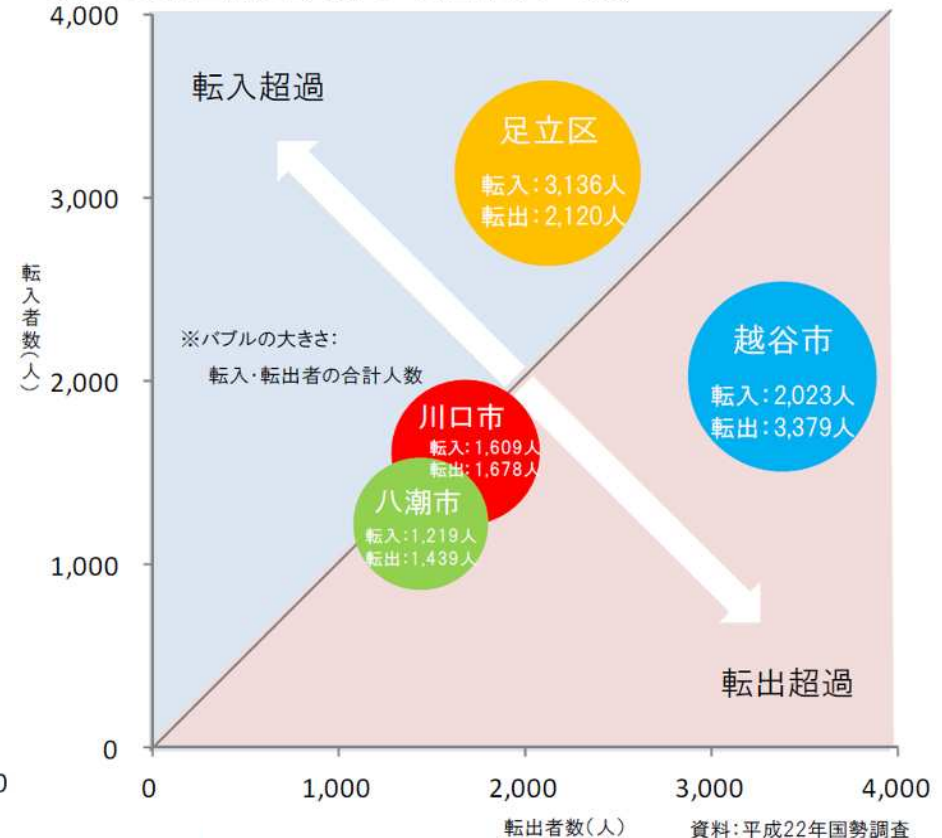
転入・転出先

平成17～22年の5年間の転入者は26,905人、転出者は27,970人で、人口が約11%が入れ替わっています。
 主な都県では、埼玉県・東京都との転入・転出者が多く、埼玉県は転出超過、東京都は転入超過となっています。
 主な市区では、越谷市・足立区との転入・転出者が多く、越谷市は転出超過、足立区は転入超過となっています。

●主な都県との転入・転出(H17-22)



●主な市区間との転入・転出(H17-22)



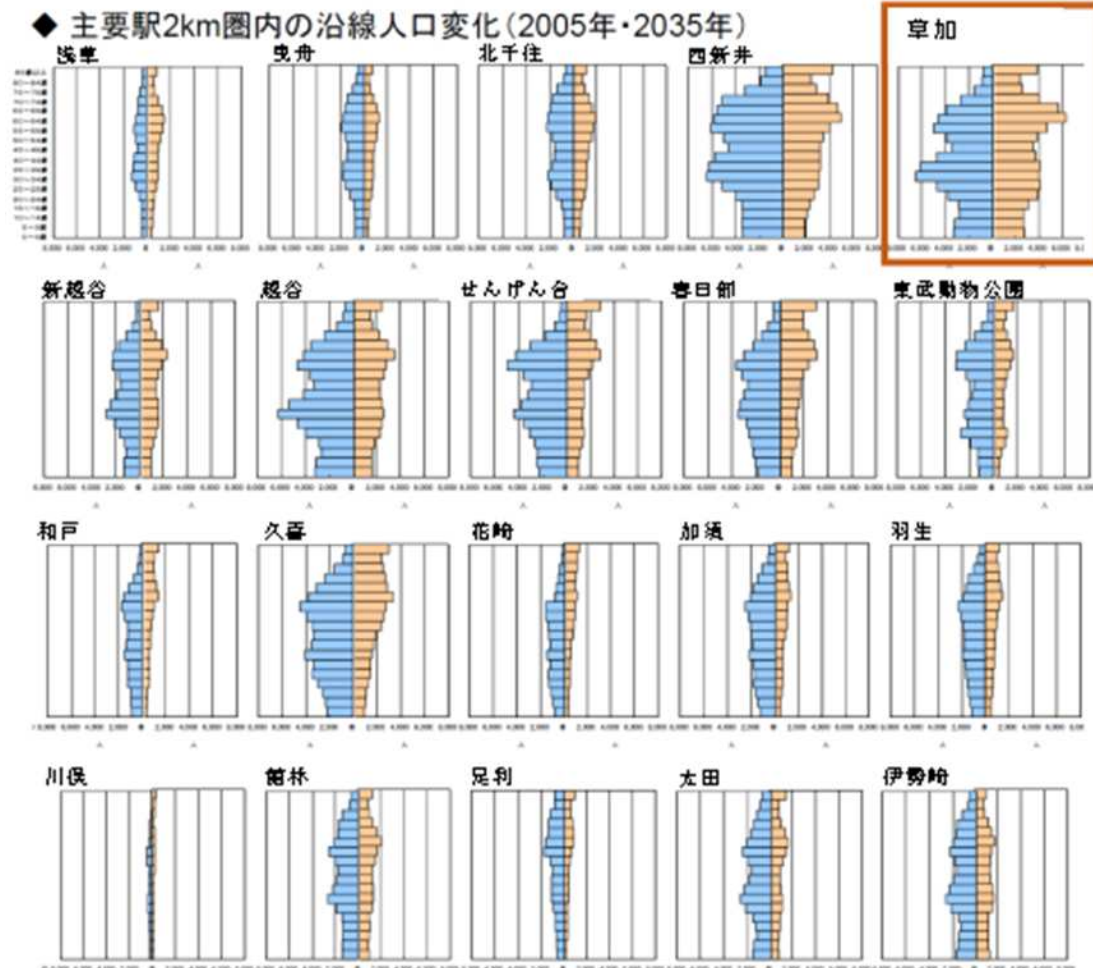
資料：平成22年国勢調査
 資料：草加市統計データブック2014

東京都市圏の沿線

	沿線名	夜間人口の増減率	指数	生産年齢人口の増減率	指数	「高齢者/生産年齢人口」の増加率	指数	平均指数
↑将来人口増加 高齢化の影響小	田園都市線	20.7	100.0	6.0	100.0	18.7	54.7	85
	京王線	8.9	73.2	-4.8	74.4	17.7	58.2	69
	東急東横線	1.6	56.6	-7.4	68.4	13.6	73.3	68
	埼玉高速鉄道	3.7	61.4	-8.1	66.5	16.0	64.3	64
	京葉線・外房線・内房線	5.8	66.2	-9.8	62.5	19.5	51.6	60
	東葉高速線	2.1	57.7	-10.7	60.3	16.9	61.2	60
	東西線	-4.6	42.6	-14.3	51.9	12.7	76.6	57
	東海道線	-6.7	37.9	-19.1	40.4	19.5	51.6	43
	西武新宿・拝島線	-0.7	51.5	-15.8	48.3	26.2	27.2	42
	小田急線	-5.3	41.1	-19.3	40.0	23.0	38.8	40
将来人口減少 高齢化の影響大	京浜急行線	-12.1	25.7	-23.0	31.1	18.6	55.0	37
	中央線・五日市線・青梅線	-6.5	38.3	-20.9	36.0	25.2	30.9	35
	総武・成田・京成線	-12.4	24.8	-24.6	27.4	19.6	51.4	35
	東北・高崎線	-10.8	28.5	-23.6	29.7	21.8	43.2	34
	相鉄線	-10.6	29.0	-25.4	25.5	26.7	25.4	27
	東武東上・越生線	-11.8	26.3	-25.5	25.1	26.2	27.4	26
	浅草・京成・北総線	-13.1	23.4	-28.6	17.9	28.6	18.5	20
	西武池袋・秩父線	-9.6	31.2	-25.6	25.0	33.7	0.0	19
	TX線・常総線	-14.4	20.5	-29.9	14.7	28.7	18.1	18
	常磐線	-18.4	11.3	-33.0	7.3	27.8	21.3	13
	日比谷線・東武伊勢崎線・日光線	-23.4	0.0	-36.0	0.0	26.3	27.0	9

出典：国土交通省『東京都市圏における鉄道沿線の動向と東武伊勢崎線沿線地域の予測・分析』

主要駅 2 km圏内の沿線人口(2005年 - 2035年)



【人口データの集計に関する留意点】

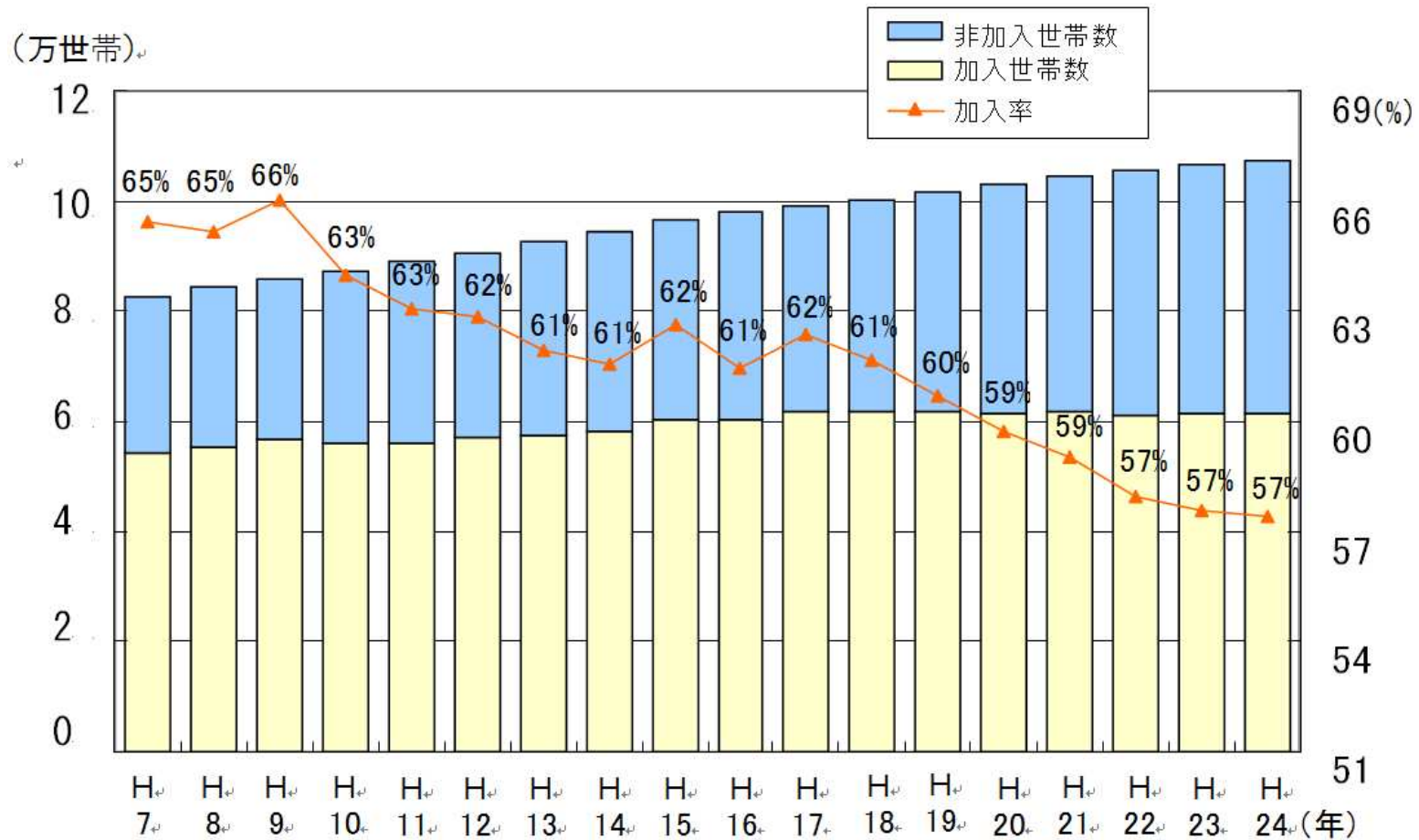
- ・各駅からメッシュ中心までの直線距離を整理した上で、現況及び将来人口を集計（ティーセン分割により、駅間の重複を除外）
- ・「将来メッシュ人口の市域合計値」と「社人研の市区町村将来人口」をコントロールトータルとして推計
- ・2000年～2005年の間に駅2km圏外において住宅開発等による人口増加があった場合には、駅2km圏人口に影響（過小評価の傾向）

出典：国土交通省『東京都市圏における鉄道沿線の動向と東武伊勢崎線沿線地域の予測・分析』

2 . 地域コミュニティ

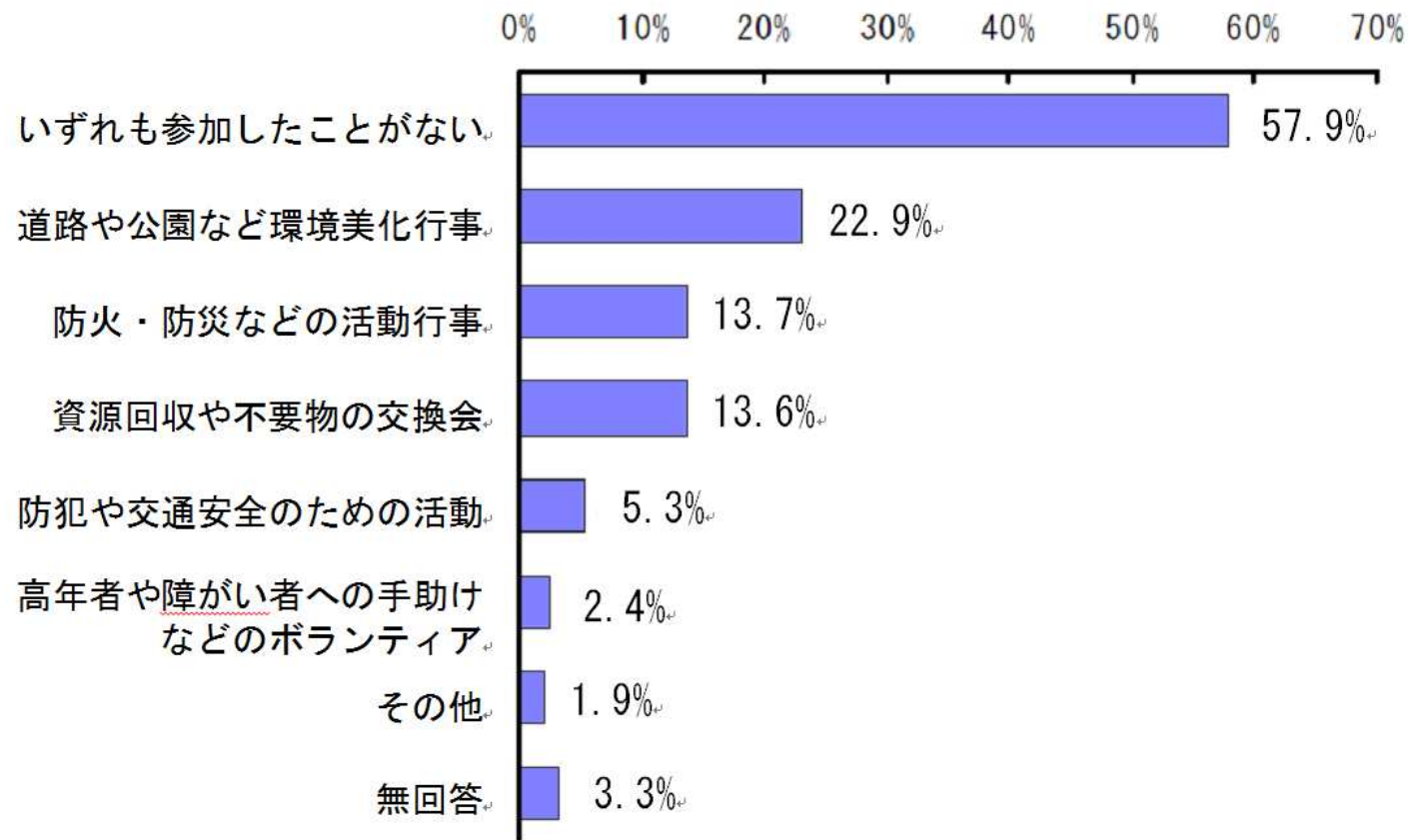
町会・自治会への加入率

住民間の交流の機会が少なく、地域コミュニティも以前に比べて弱体化しており、住民が暮らしの中での地域とのつながりを実感しにくい状況となっています。



参加したことのある地域活動

近年は地域活動に参加したことのない人も多く、地域のお祭りにも参加者が減り、お祭りに苦情の声も出ているという現状である。地域に新たに住み始めた方は「自分も越してきた人間、まだまだよそ者」という感覚を持つ人もおり、地元住民意識の醸成の難しさがうかがえる。

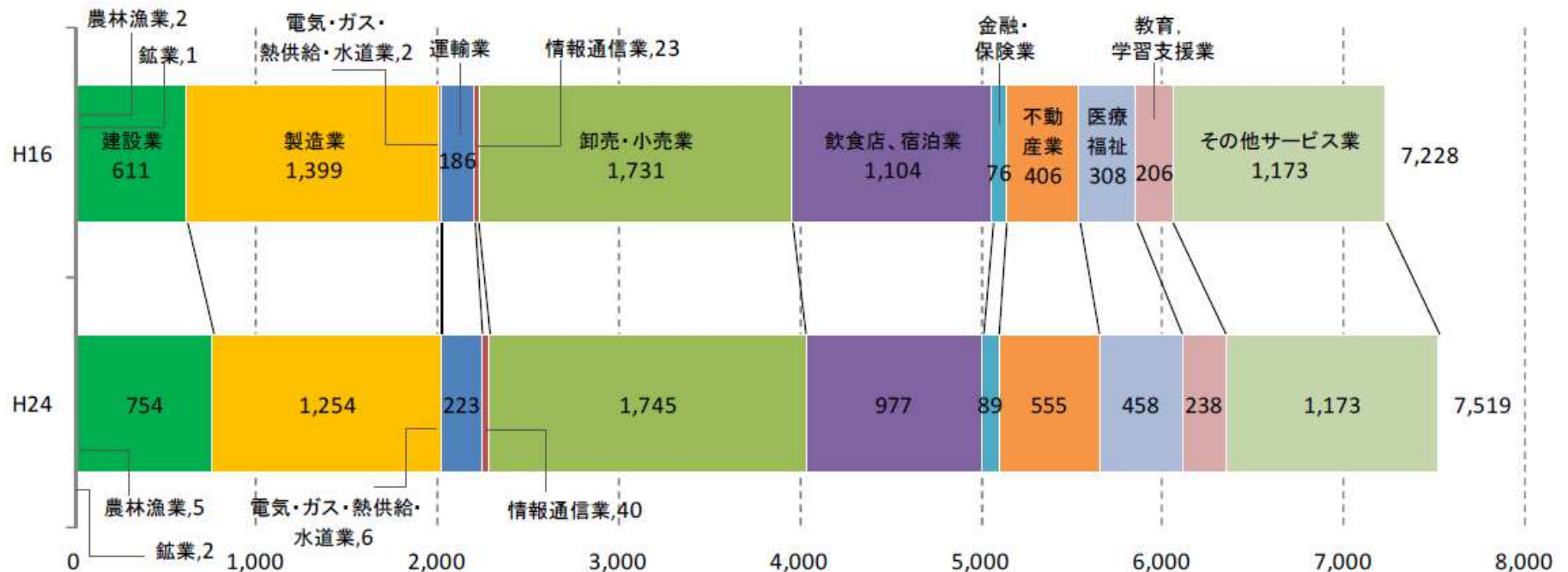


3 . 草加市の産業

産業別の事業所数

事業所数及び従業員数の上位3産業は、「卸売・小売」「製造」「飲食・宿泊」です。
また、増加した産業は「建設」「不動産」「医療・福祉」等で、減少したのは「製造」です。

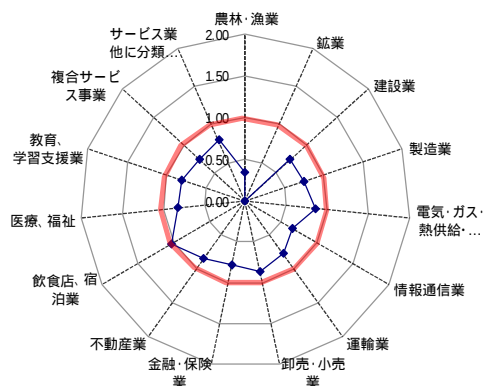
●産業別 事業所数



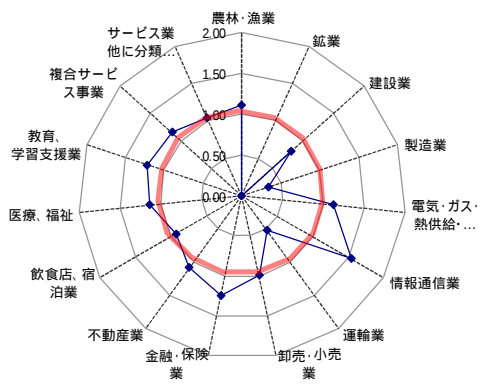
埼玉県その他都市との事業所数の比較

人口一人あたりの事業所数の平均値を比較すると、草加市は全般的に集積が小さく、特化した産業も見られません。

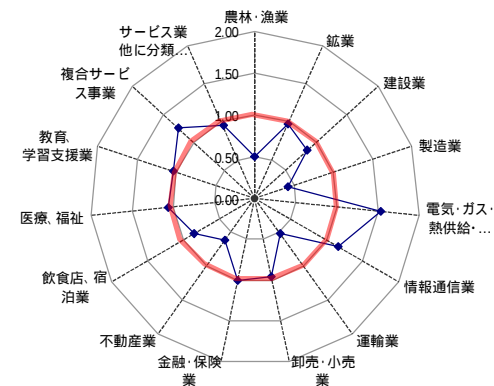
草加市



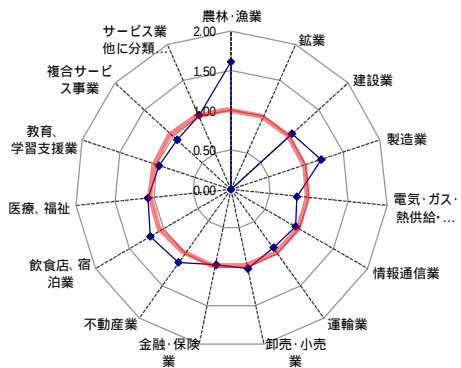
さいたま市



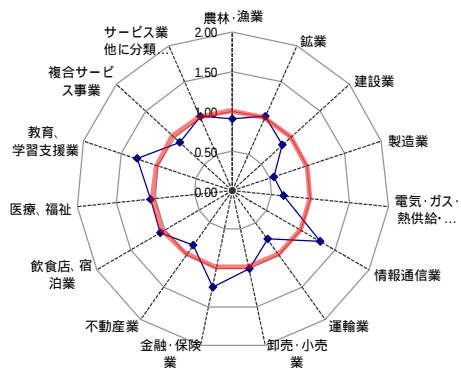
川越市



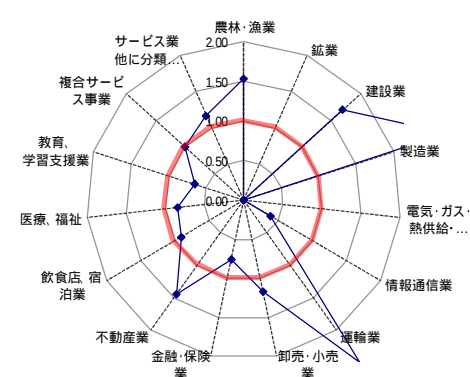
川口市



越谷市



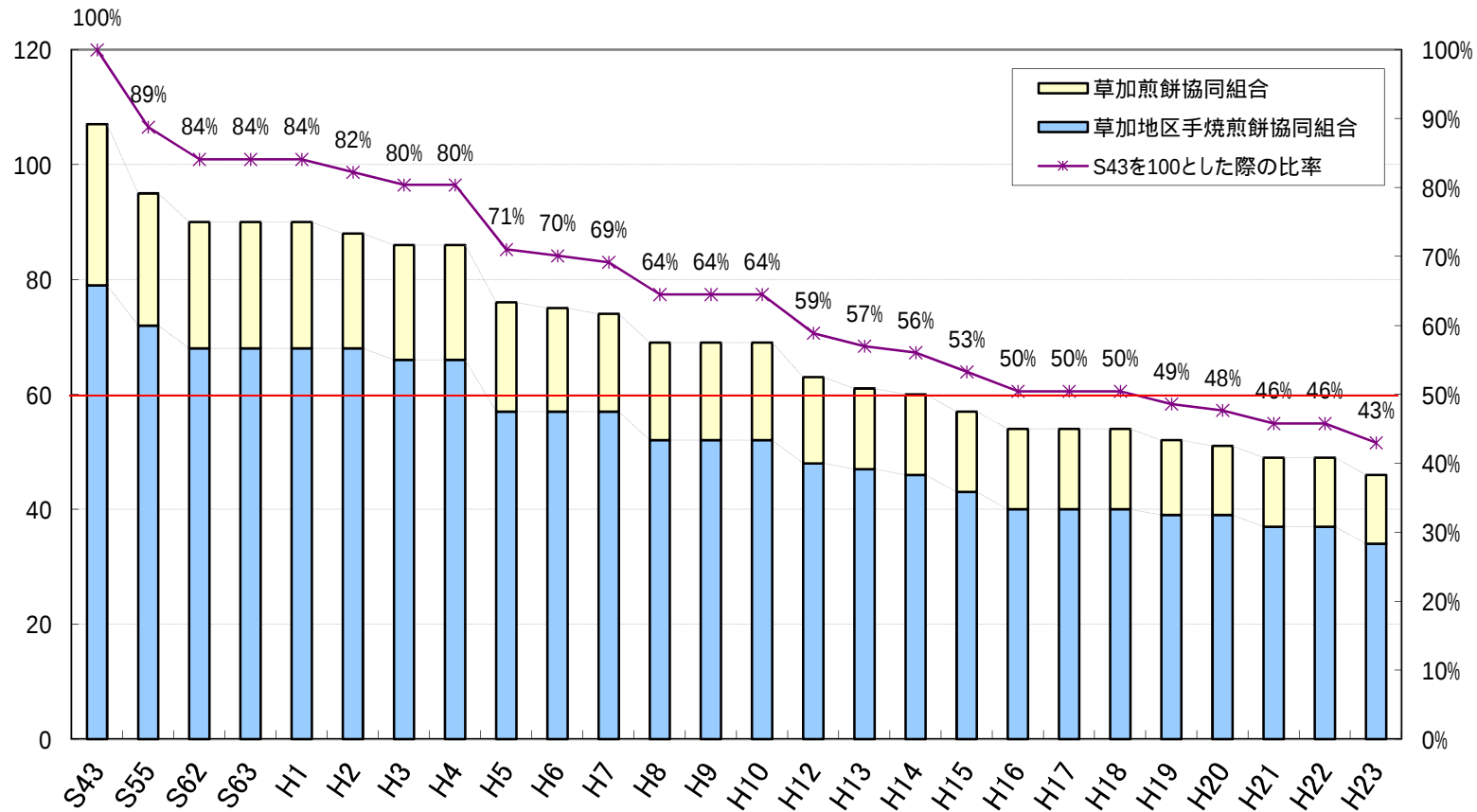
八潮市



出典：事業所・企業統計調査

せんべい組合加入数推移

草加煎餅協同組合加入者数、草加地区手焼煎餅協同組合加入数も昭和43年から右肩下がりに減少しており、現在は半数以下となっていてしまっています。



出典：草加市ホームページ

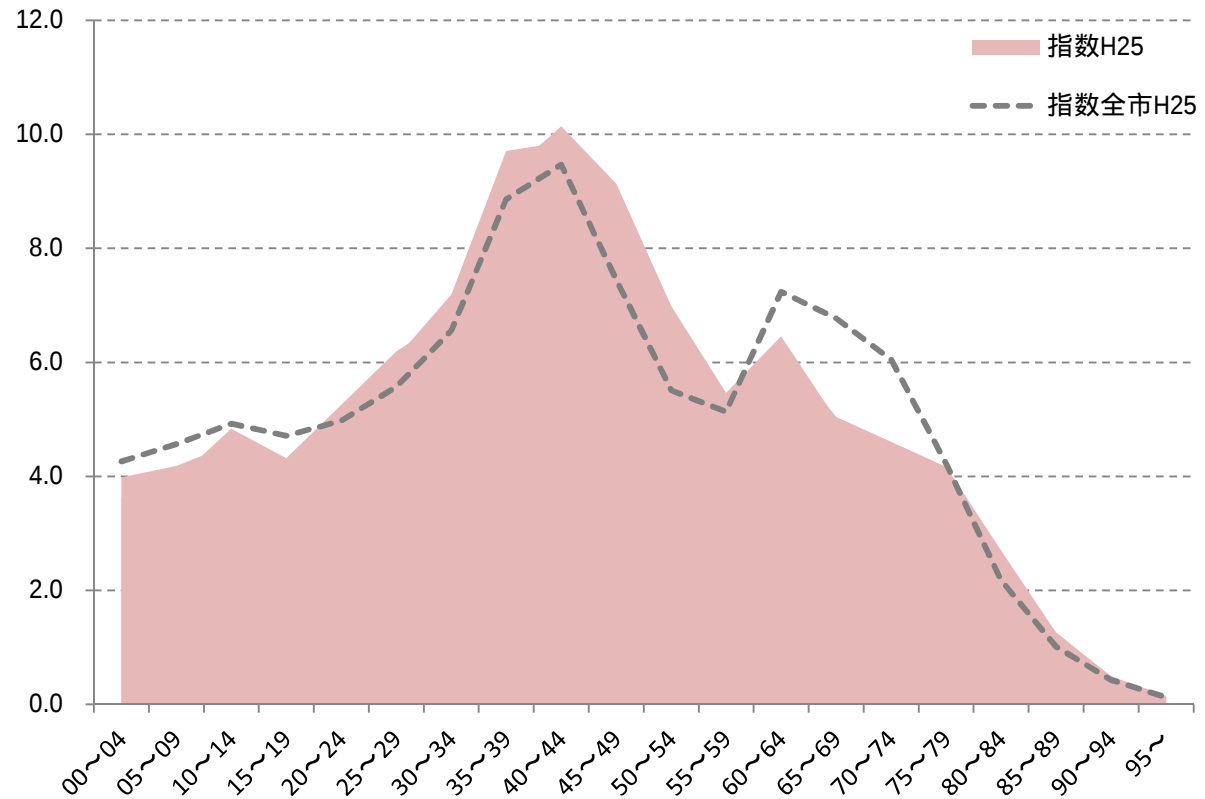
4 . 旧道沿道エリアの人口

旧道沿道地区の人口



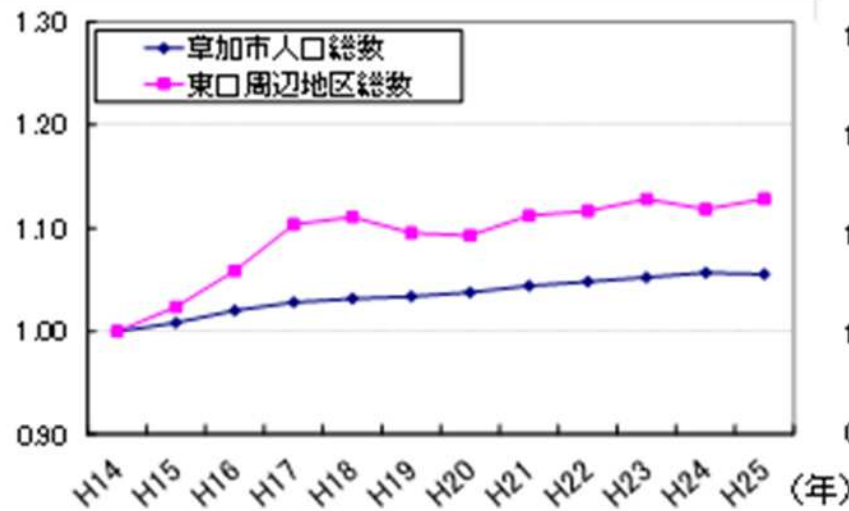
旧道沿道地区は、概ね高砂 1 丁目、高砂 2 丁目、住吉 1 丁目、神明 1 丁目で構成されており、この 4 町丁目での人口に関するデータを全市と比較。

旧道沿道地区の人口構成は市全域と比較すると、20～54歳の比率が高く、60 歳以上の比率は低くなっています。

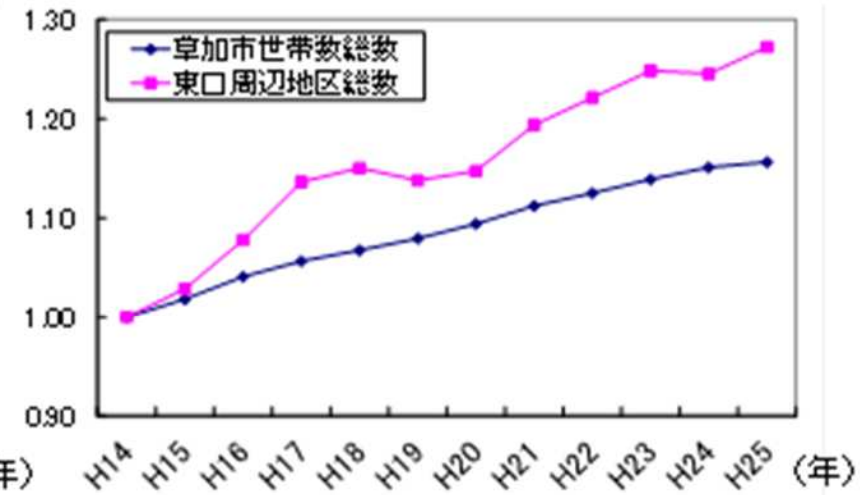


旧道沿道エリアの人口動態

市全体とは異なり、旧道沿道エリアの人口・世帯数は増加している。前述のデータからもわかるように、特に30代～50代の生産年齢人口が増加していることがわかります。



草加駅東口周辺地区及び草加市の人口推移

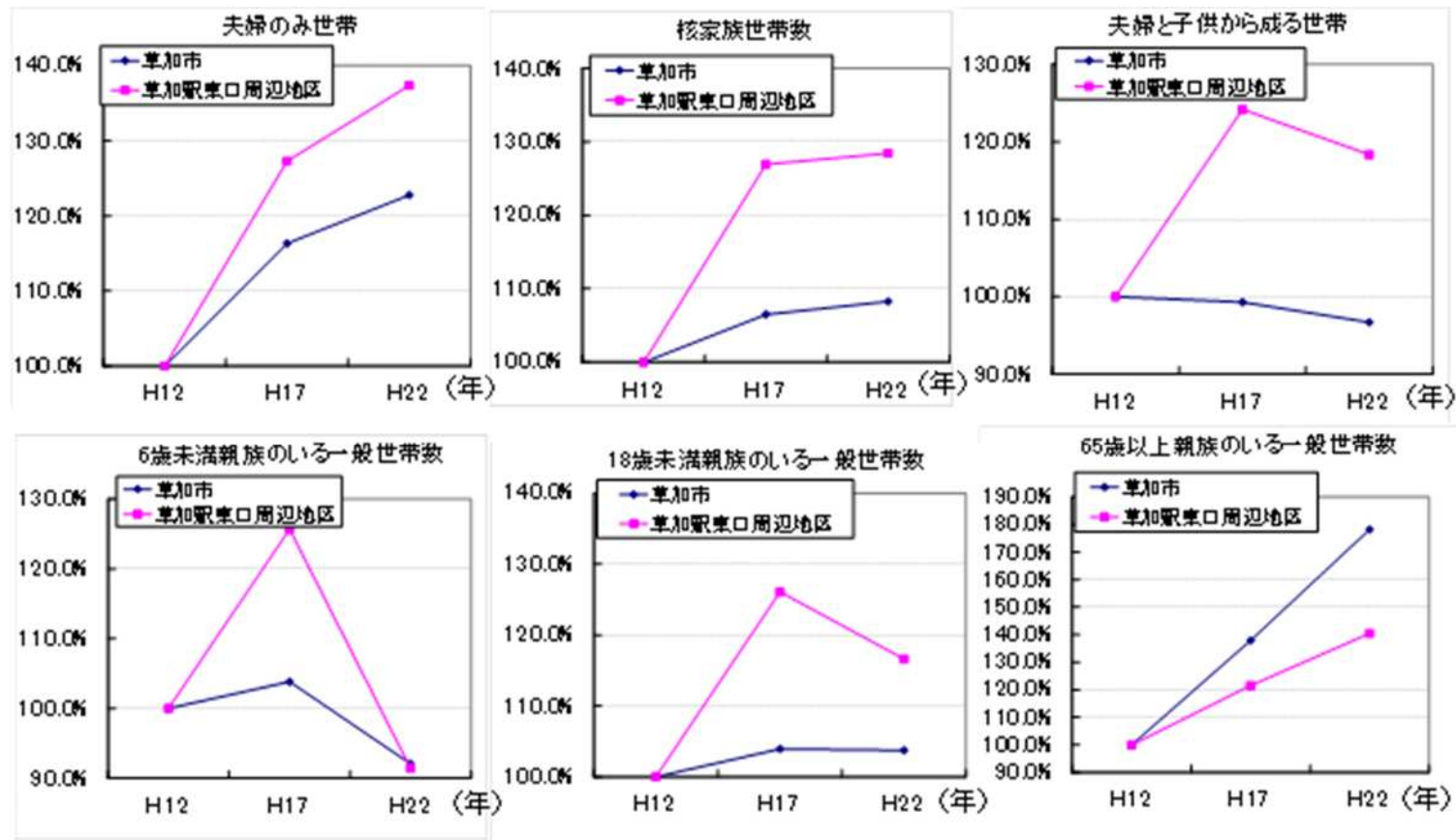


草加駅東口周辺地区及び草加市の世帯数推移

※H14 年を 1.00 とする
出典：住民基本台帳＋外国人登録者

旧道沿道エリアの人口動態

新築マンションが多く立地する傾向があり、東京までの利便性の高さと手頃な価格から、ファミリー世帯を中心としたマンション購入者等の増加が顕著であり、その結果、旧道沿道エリアには代々街道沿いで暮らしてきた旧住民と、草加市に流入してきた新住民が共存している状況がうかがえます。

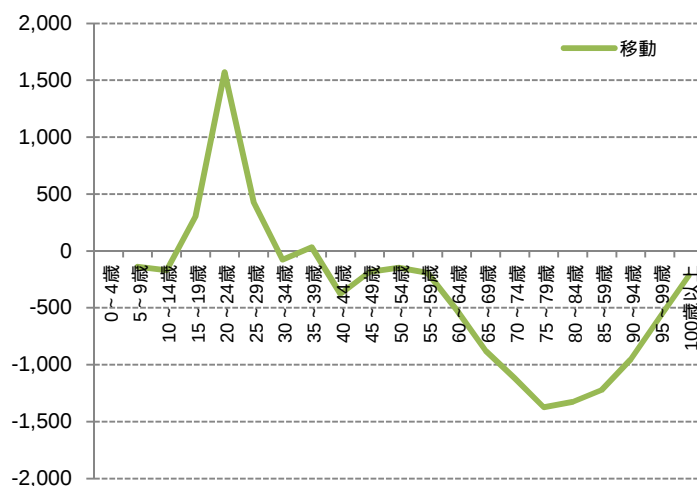


※H12年を1とする 出典:国勢調査

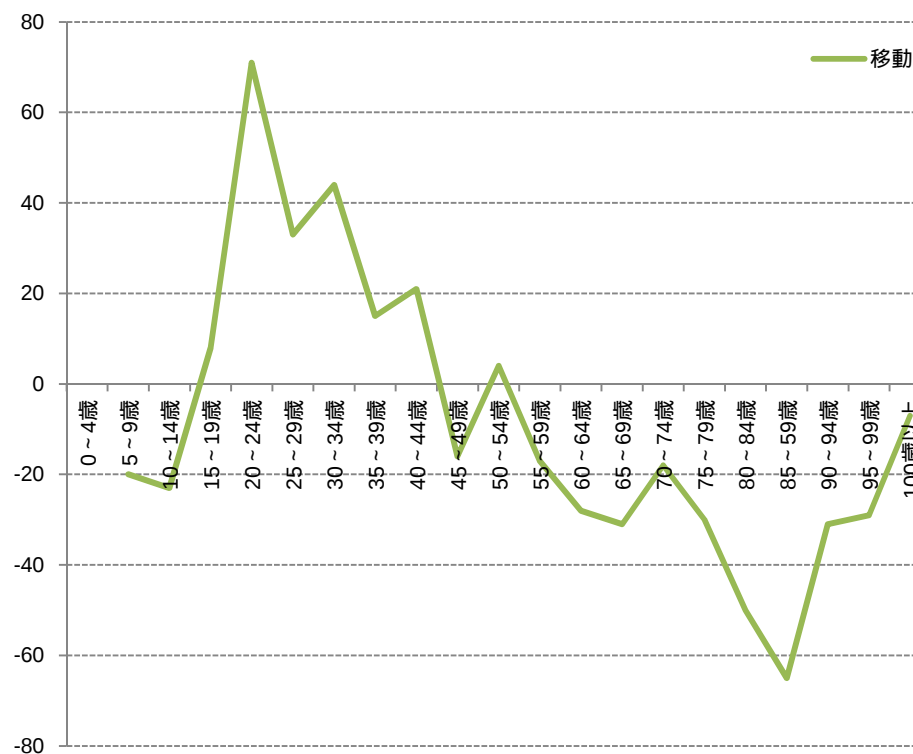
旧道沿道地区のコーホート分析(H22-H27)

旧道沿道地区の平成22年から平成27年の5年間の人口移動について、市全域と比較すると、30代～40代の流入が多くなっていることがわかります。

■ 全市

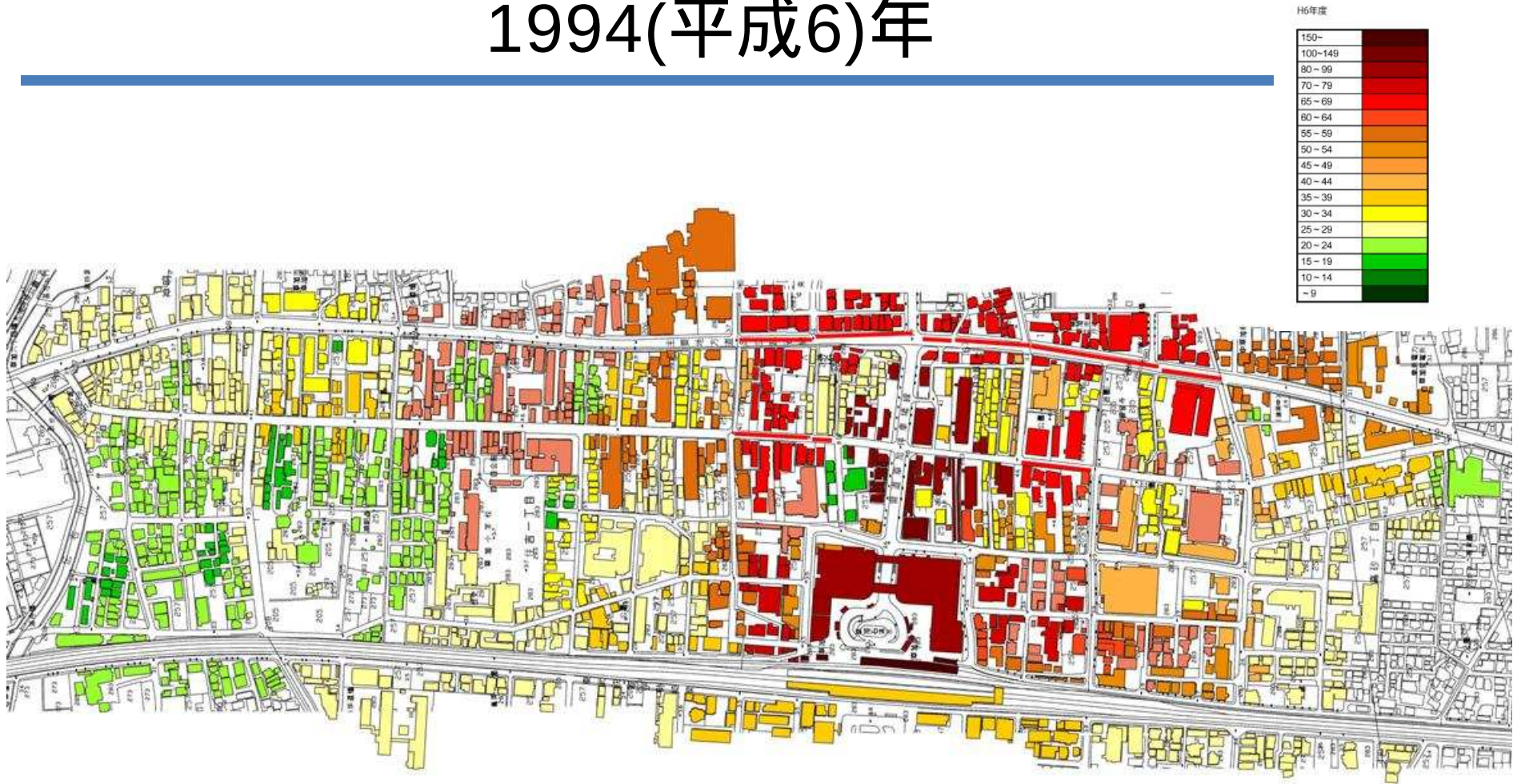


■ 4町丁目計

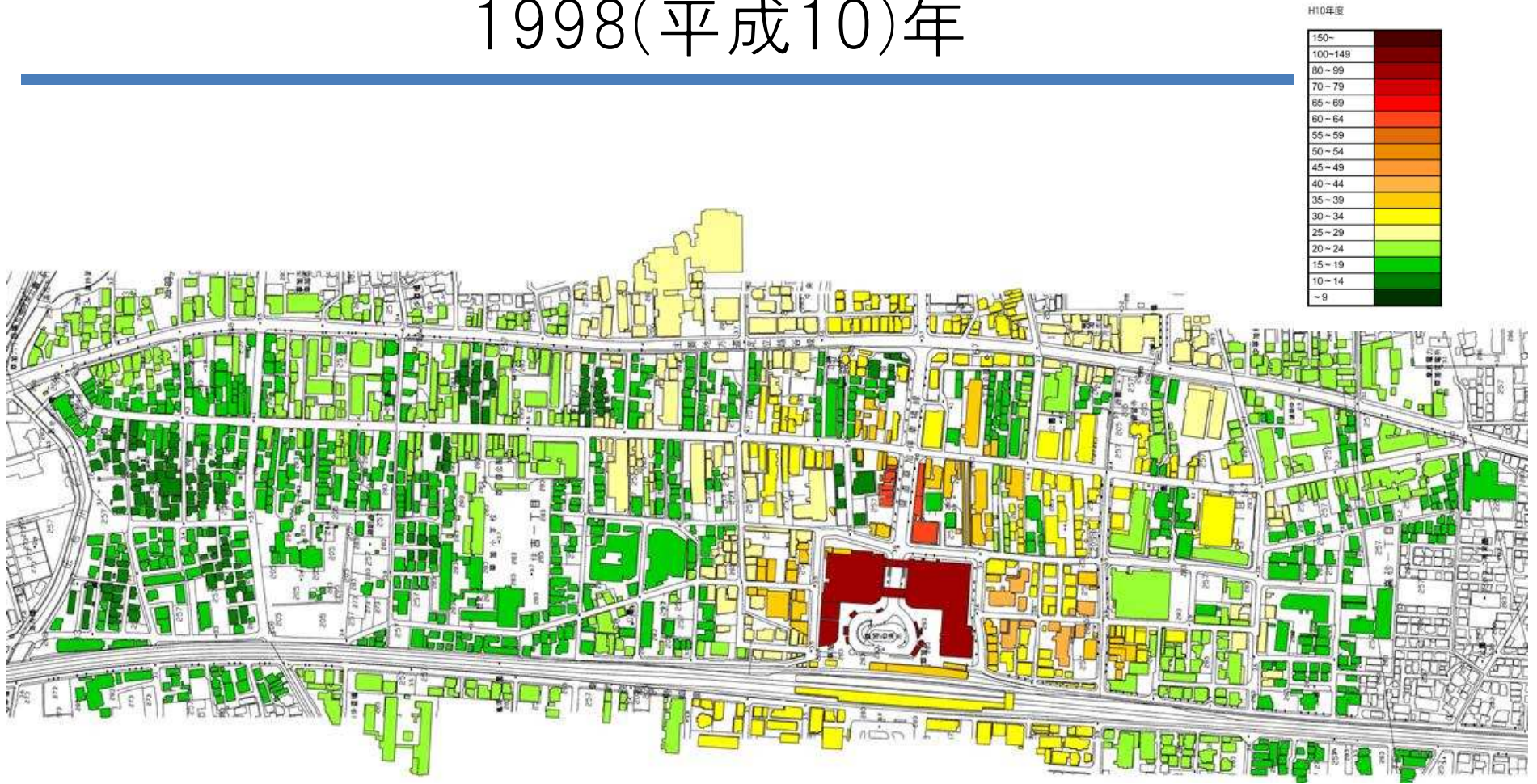


5 . 旧道沿道エリアの地価推移

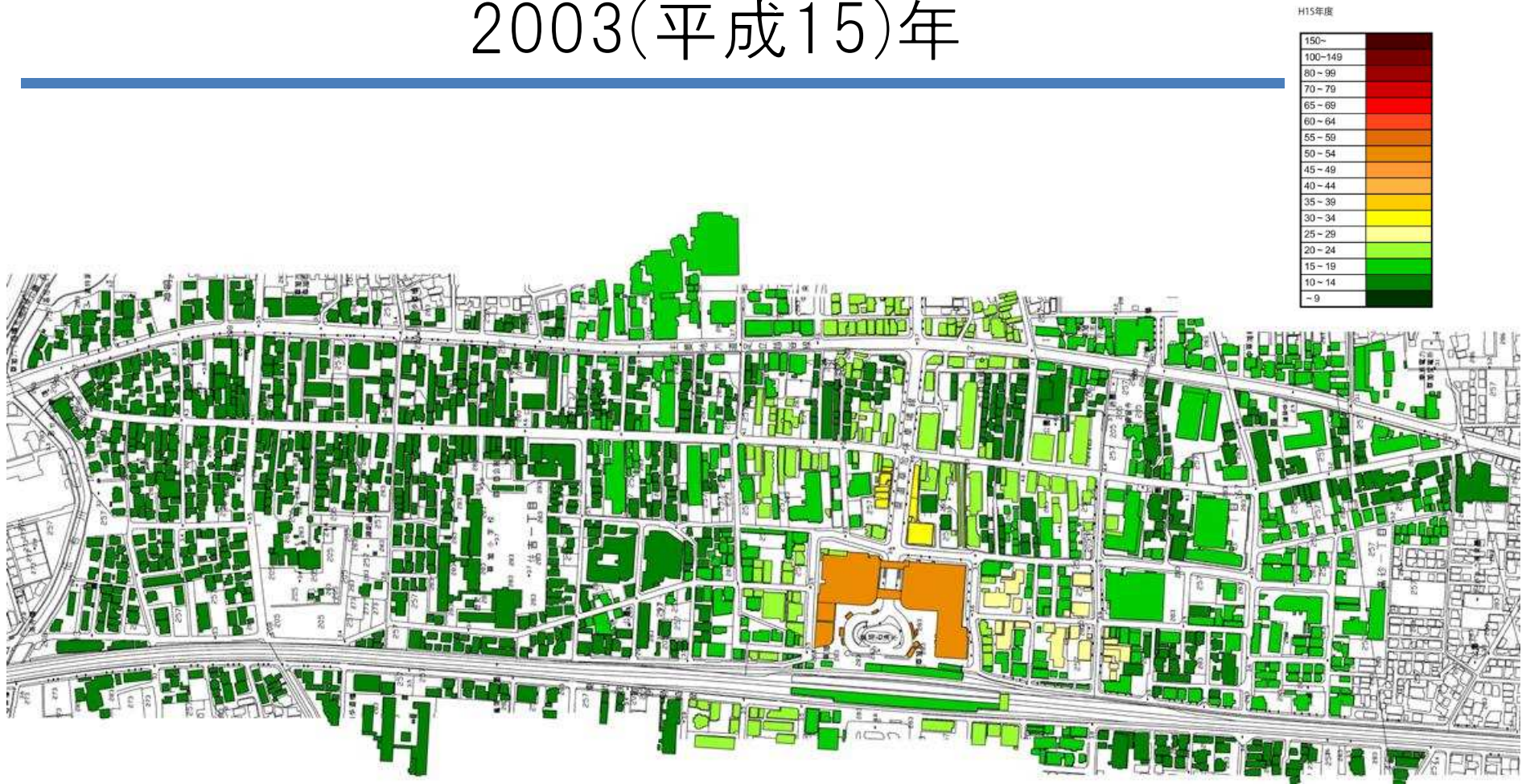
1994(平成6)年



1998(平成10)年

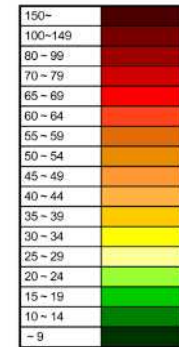


2003(平成15)年

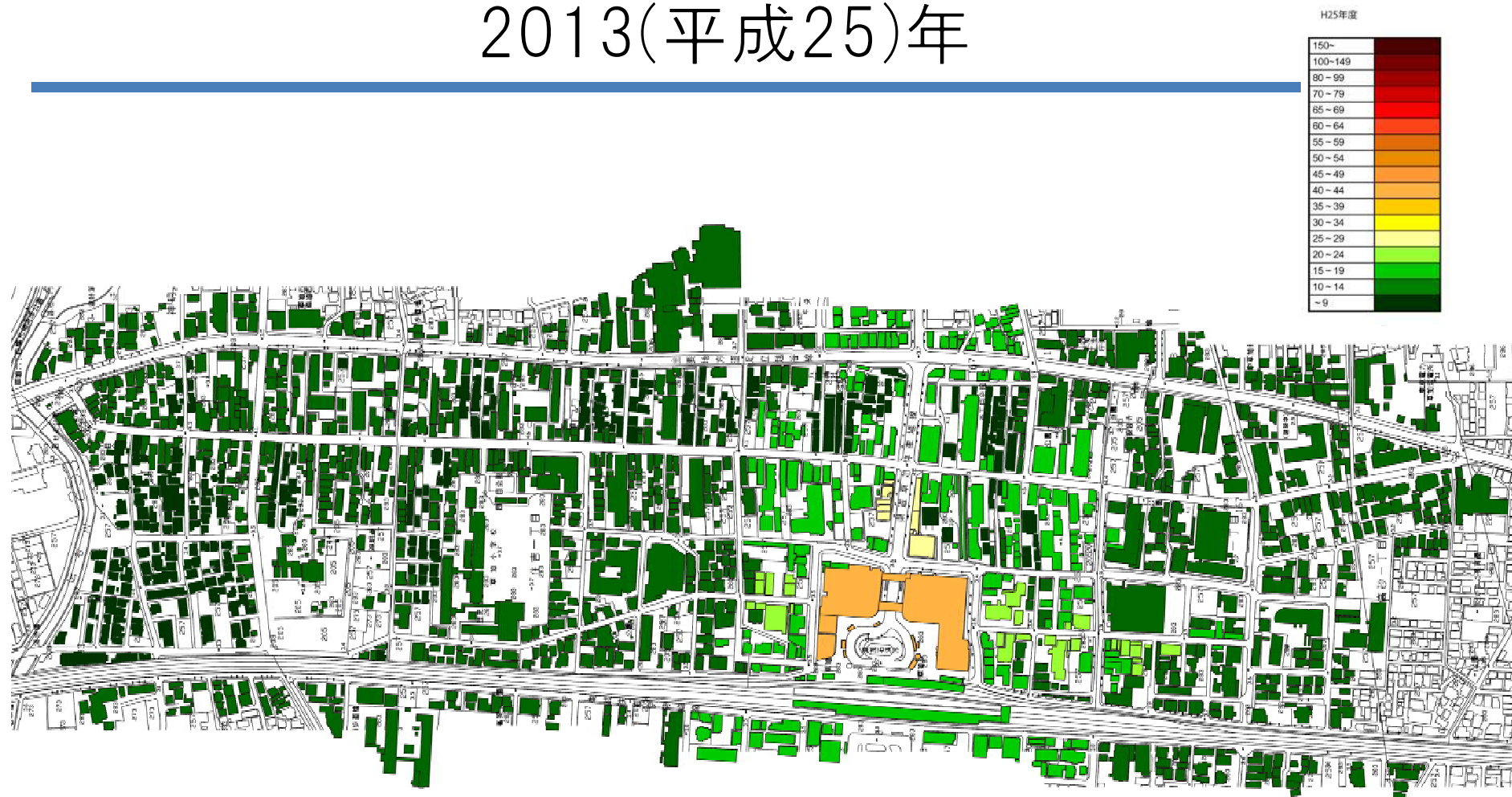


2008(平成20)年

H20年度



2013(平成25)年



旧道沿道エリアの地価推移

1994(平成6)年

1998(平成10)年

2003(平成15)年

2008(平成20)年

2013(平成25)年



6 . 旧道沿道エリアの課題

旧道沿道エリアの課題

《 調査から浮かび上がった課題 》

個性に欠け、都市空間としての魅力にも欠けている。

地区内の消費は伸び悩んでおり、足元需要の取りこぼしうかがえる。

住民間の交流の不足や地域コミュニティの弱体化もうかがえる。



旧道沿道エリアが草加の「都市核」として
生き残りを考える必要がある



草加の都市核として魅力を高める「コンテンツの創造」

経済活動の活性化に資する施策を複合的に講じ、

24万商圈および近隣の経済活動（「消費」「生産」「調達」）の核
としての機能を再生する。